

## 駅前空間の再整備事業に伴う景観設計について —河辺駅北口整備事業を事例として—

日本工営株式会社 正会員 ○石原 晃一  
日本工営株式会社 山手 弘之  
青梅市都市整備部 本橋 功

### 1. はじめに

河辺駅北口整備事業は、青梅市の玄関口として商業・文化・業務等の都市機能の集積を図ることを目的とし、駅前広場北側に(財)東京都新都市建設公社が建設する複合商業ビルの計画に合わせ、JR 駅北口と商業ビルを回遊型で結ぶ歩行者用デッキを新設するとともに、駅前広場の再整備を行ったものである。本稿は、魅力と賑わいのある中心市街地の形成に向けた、景観に配慮した駅前空間の整備設計事例について報告するものである。

### 2. 青梅市における景観への取り組み

青梅市では、「青梅市の美しい風景を育む条例」を平成16年6月に定め、優れた景観づくりを計画的に進め、誇りと愛着の持てる暮らしやすいまちの実現を目指し取り組みを進めている。同条例にもとづき「まちづくり・デザイン専門家会議」、「景観審議会」(会長：政策研究大学院大学 篠原修教授)を設置している。

本事業については、篠原教授を景観アドバイザーに迎え、指導を仰ぎつつ景観整備を進める体制とした。

### 3. 事業実施前における駅前の状況

事業実施前の北口駅前広場は、路線バスおよびタクシーの乗り入れがある一方で、点在する安全島を接続するための横断歩道箇所が多く、さらに歩道幅員も狭かったため、歩行者や自転車の安全確保上の問題があったほか、バリアフリー化が遅れていた。さらに、駅北側の空地に河辺タウンビル(東側のAビルは主として商業テナント、西側のBビルは市の新中央図書館、温浴施設等が入居)の建設に伴い、さらなる交流人口の増大が見込まれており、より快適で魅力的な駅前空間構築が求められていた。



### 4. 駅前広場と歩行者用デッキの整備計画

駅前広場の再整備計画では、主たる車両乗り入れ口を1箇所に限定し、横断歩道箇所を少なくして歩道幅を極力広く確保した。また、歩道舗装に透水機能を有するレンガ舗装や、照明に長寿命で演色性の高い光源を採用するなど、快適性やコストを重視しつつ、景観性にも配慮した計画とした。

歩行者用デッキは、駅・タウンビル・周辺地域を相互に接続し、歩行者が安全・快適に移動できることを目的として計画した。デッキ平面形状は、利便性のほか歩行者の回遊性にも着目し、ユニークなループ形状を採用した。デッキの構造諸元は、有効幅員4.0m、周長150m、形式は鋼床版箱桁ラーメン橋となっている。また、タウンビル側におけるデッキの昇降施設は、同ビル内の階段・エレベータを共用することで、効率的な施設計画を行い、歩道空間の確保に努めた。



写真-1.2 整備前後の駅前状況  
上段:2005年8月[整備前]  
下段:2008年3月[整備後]

キーワード 景観, 歩行者用デッキ, 駅前広場, 模型, 色彩

連絡先 〒102-8539 東京都千代田区麹町5-4 日本工営(株) TEL 03-3238-8030

### 5. 景観検討の手法

デッキや駅広諸施設のデザインは、下記の①～④を繰り返すことで、スパイラルアップを図った(図-1)。

- ① デザインの比較検討を実施し、有力案を抽出する。
- ② 有力案について可視化(パース・CG・模型等の景観検討ツールを活用)する。
- ③ ②の資料を用いてデザイン専門家会議に諮る。
- ④ 会議結果を踏まえ、さらに改善案を作成する。

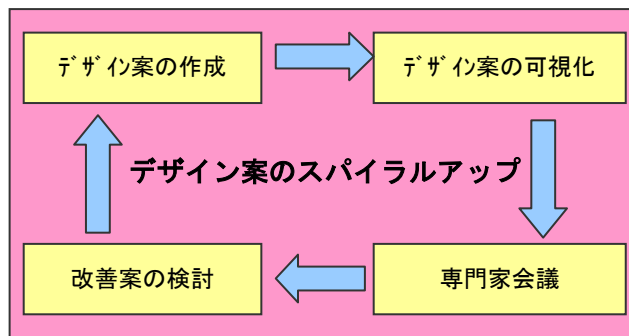


図-1 景観検討の流れ

デザイン専門家会議では、篠原教授を含めた関係者一同による協議を行い、意見交換を行った(時には市長自ら会議に参加することも)。その結果を踏まえ、さらに改善案を作成しながら、景観検討を進めた。

景観検討ツールとしては、駅前広場の1/200全体模型、歩行者用デッキの1/20部分模型、イメージパース、CGなどを用いた(写真-3)。これらの景観ツールは、施設の完成形を立体的に可視化でき、デッキの断面形状や広場内施設の配置など、ディテールの確認にも有効であり、関係者の理解と合意を得るうえでおおいに役立った。



写真-3 全体模型

### 6. 景観検討を実施するうえでの留意点

#### (1) 色彩計画

デッキ本体の塗装色は、「日本の伝統色」による色見本を参考に、「白茶色(しらちゃいろ)」を選定し、地上部のレンガ舗装の色調との整合性を意識しながら選定した。

これらの景観材料は、色見本やCGで数案に絞り込んだのち、塗り板見本や景観素材を取り寄せて現地で確認を行った(写真-4)。これらの対応により、現地に相応しい、統一性の取れた色調を選定することができ、優れた景観効果が得られたと考えている。



写真-4 現場での景観材料確認状況

#### (2) コストバランスの配慮

公共事業であるがゆえ、コスト増には注意が必要であった。当該歩行者用デッキは、溶接接合継手の採用、排水装置の構造内部への配置などの構造細目に配慮しつつ、桁裏面構造をあえて見せるデザインとした。結果として、経済的でありながらシンプルでスレンダーな、鋼橋ならではの景観性を創出できた(写真-5)。

### 7. おわりに

本事業は平成20年3月をもって無事竣工し、既に供用が始まっている。昨年は本事業地を会場とした市民祭りも開催された。今後も本事業の整備効果として、地域経済の活性化や地域の発展が促されることを願っている。

### 参考文献

- ・大日本インキ化学：日本の伝統色



写真-5 デッキ裏面の様子(完成後)